

## 西濃農林事務所の普及活動状況 令和6年2月29日現在

### 今月の重点活動

#### ■スマート農業 西濃農業の活性化をめざすセミナーを開催

2月2日、海津市OCT文化センターにて、西濃農林事務所、JAにしみの、西南濃農業普及事業推進協議会、西濃地域スマート農業研究会の共催により、令和5年度西濃農業の活性化をめざすセミナーを開催した。

テーマは「スマート農業」とし、農林事務所からはトマトの環境制御技術の成果、海津市の土地利用型法人からGPS機械やドローンを活用した直播栽培の成果、JAにしみのからはリモートセンシングによる可変施肥の成果について情報提供が行われた。また、(一社)日本農業情報システム協会の理事より「スマート農業の現状、将来どうなるか、どう技術をいかすべきか」と題した講演があり、様々な情報・技術を取集し、使いこなすスキルを高め、経営主の個人プレーからチームプレーで経営に取り組めというメッセージが贈られた。

農林事務所では、農業者の経営改善に向け、今後も関係機関と連携して、情報提供や研修会等の支援を行っていく。



【セミナーの様子】

### 西濃の農業・農村を支える人材育成

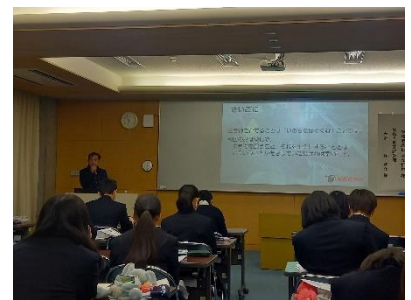
#### ■担い手リーダー 大垣養老高等学校で出前講座を実施

農林事務所は、2月5日、県立大垣養老高等学校動物科学科2年生を対象にした出前講座を開催した。

出前講座は、管内の農業の現状を理解してもらうことで、地域農業への興味・関心を一層高め、農業の担い手育成・確保に資することを目的としている。

今回は「畜産」をテーマとし、管内で畜産業に取り組む指導農業者と県農業経営課革新支援専門員が講師となり、県の畜産概況や自分の経営について講義が行われた。受講した生徒からは資材高騰の対策や畜産業の魅力などについて質問が出され、講師が真剣に答える場面も見られた。

農林事務所は、この出前講座を通じて西濃地域の農業を担う人材が育つよう、引き続き支援していく。



【出前講座の様子】

#### ■西南濃地区農業婦人クラブ連絡協議会 長年の活動に終止符

西南濃地区農業婦人クラブ連絡協議会は、西濃地域の農業婦人団体で構成され、昭和48年から50年にわたり活動してきた。しかし、当初の目的を達成したと考えられることや、高齢化により会長候補の不在から、農林事務所では役員会の開催を支援し、今後の方向について協議を重ねた結果、臨時総会を開催して解散することとなった。

2月20日の臨時総会では、会長から、これまでの活動への感謝と、地域の農業婦人クラブ活動は引き続き頑張っていってほしい旨の挨拶があった。総会終了後には、会員一同から感謝の意を込めて、会長に鉢花の贈呈があった。

地域の農業婦人活動は引き続き活動することから、農林事務所では、必要に応じてその活動を支援していく。



【鉢花贈呈の様子】

## 安心して身近な「西濃の食」づくり

### ■ 土地利用型作物 令和5年度営農集団等地域リーダー研修会

令和6年2月21日、JAにしみの本店において、地域の担い手やJA全農岐阜、農業共済組合等で約250名が参加し、営農集団等地域リーダー研修会が開催された。

第8回JAにしみの『旨い米』コンクールや第5回JA米多収コンテストなどの他、農業普及課からは、水田作の振り返りとして、水稲・小麦・大豆の実証結果やみどりの食料システム戦略に係る実証結果について情報提供を行った。

今回の研修会は、コロナ禍前と同様に終日開催され、参加者は熱心に聴講し農業経営の改善につなげる活気が感じられた。

今後も農業普及課は、地域の担い手の経営安定を図るため、各作物の課題解決に向け、実証ほの設置や調査等を継続支援していく。



【研修会の様子】

## 西濃農畜産物のブランド展開

### ■ 冬春トマト 海津トマト部会 ぎふ清流GAP審査

2月1・5・7日、海津トマト部会の3名の生産者で、ぎふ清流GAPのほ場審査が行われた。

今回は、組織ではなく個人としての申請であったが、来年度以降に、部会全体での申請も視野に入れ、これまでにJAにしみのTACとともに、審査に向けた支援を行ってきた。

1月31日には内部点検を行い、改善できる箇所は事前に改善して審査に臨んだ。生産者からは事前に改善した部分が審査にて評価されて良かったという反応や、今後もリスクの特定・改善に取り組んでいきたいという前向きな声もあった。

農林事務所は、今後の是正措置の支援を行うとともに、部会での団体申請に向けて活動を推進していく。



【審査の様子】

## 地域資源を活かした農村づくり

### ■ くり くり栽培勉強会、植樹会が行われる

不破郡垂井町栗原地区は「古代、都の候補地に挙がるほど栄えていた」という伝承があり、人口減少が進む栗原地区に賑わいを取り戻そうと、住民らが「シン栗原京実行委員会」を結成した。

シン栗原京実行委員会は、過去には地区に多くあったというくりに着目し、くりを特産品に育てるべく活動し、これまで「栗の市マルシェ」を開催している。

2月17日、くり栽培を理解し、苗の植え付けを促すため、垂井町栗原地区まちづくりセンターにおいてくりの栽培勉強会が行われた。農林事務所の担当者が講師となり、くり栽培の基本について情報提供を行った。また2月24日には、地域の遊休農地にくり苗を植える、くりの植樹会が行われ、2ほ場に51本が栽植された。

農林事務所は養老山麓などに推進する果樹として、みかん・かきに続く第3の品目としてくりを位置付け、今後も栽培支援を行っていく。



【研修会の様子】